

長年にわたり熊本の湧水などを調査・研究されている、金峰山水守の田中浩二さんが、昨年から今年にかけ金峰山湧水群の硝酸性窒素濃度の調査をされました。今回はその調査結果について報告をいただきました。

金峰山湧水群の硝酸性窒素濃度について 金峰山水守・田中浩二

はじめまして、金峰山水守の田中浩二です。熊本の湧水研究会、NPO法人コロボックル・プロジェクトに所属しています。熊本県の湧水を調査研究して40年近くになります。熊本の湧水研究会では湧水の水質担当ですが、湧泉にまつわる伝統行事や言い伝えなども調査しています。対象は熊本県全域で、1300カ所以上の湧泉について調査してきました。調査結果はまとめて、2004年に「水は伝える熊本の湧泉」(熊本電波高専出版会)として出版しました。



田中さん（左端）と仲間たち

最近は金峰山湧水群の硝酸性窒素による汚染や成道寺湧水、お手水湧水を水源とする成道寺川の水質や環境保全に主力を注いでいます。硝酸性窒素による水質汚染は荒尾地域や熊本地域で未だ改善が見られない大きな問題となっています。私がこの問題に気づいたのは1984年頃でした。それ以前の資料がありませんでしたが、汚染源のあるところとないところとの差や聞き取りでの藻の繁殖などから推測できました。1985年に熊本の科学欄に2回にわたって「金峰山周辺の湧泉」というコラムを書きましたが、その中でも指摘しました。それから20数年経って問題が顕在化し、対策が打たれ始めましたが良い結果は得られていません。

しかし、ここに希望を持てる資料を提供します。昨年度、熊本地域地下水保全対策会議からNPO法人コロボックル・プロジェクトに対してデジタルバックテスト・マルチ(水質分析器)の購入補助があり、自前の分析が可能となり、昨年の10月と今年の4月に測定しました。その結果、下記の表のような結果を得ました。1984年から2005年には汚染が大きく進みました。しかし、最近では頭打ちないし減少へと転じているようです。水道法の規定では10mg/l以下となっています。表には出していませんが、これを超えている湧泉もあります。雨量などを含めた季節変動などもありますので、減少傾向が確定したわけではありませんが、昔の水質に戻るよう今後も測定を続けて見守り、結果の報告をしたいと思っています。

硝酸性窒素濃度 (mg/l)

測定年・月	1984.7	2005.11	2010.10	2011.4
太郎迫神社の湧水	2.73	6.00	7.26	5.50
菱形の池	1.93	8.80	8.14	枯渇
尾田の丸池	1.81	7.90	6.48	4.76
たたら水	1.36	7.60	8.36	6.76
上川床の湧水	1.02	3.60	3.23	2.54
平山北	0.84	5.50	6.04	4.30
延命水	1.39	4.40	3.37	3.45
いんの川	0.76	2.80	2.11	1.59
お手水 (柿原養鱒場)	0.90	1.40	1.33	0.88
前川の井川端	3.00	7.00	3.21	1.49
平均	1.57	5.50	4.95	3.47